

ずいひつ

Z U I H I T U



就任から半年を迎えて

函館市公営企業管理者
田畑 浩文

私は、今年5月に水道・下水道・路面電車を運営する函館市企業局の公営企業管理者に就任いたしました。いずれの事業も長い歴史と伝統を有している中で今年には水道が創設130周年を迎えました。「未来へつなぐ水のみち」をキャッチフレーズに、さまざまな記念事業を実施し、そのデザイン関連は、公立はこだて未来大学のご協力をいただいています。

記念ロゴマークは、創設時に建設され今も現役でその役割を果たす元町中区配水池の柱をモチーフとしており、公用車に貼付したほか、企業局だより等の広報に活用しました。限定ペットボトル水のラベルについては、誰が見ても「はこだての水」と分かるよう、水道施設とともに、「函館観光といえば」で皆さまが思い浮かべるスポットである函館山や教会などの異国情緒溢れる魅力的な街の風景を描きました。ラッピン

グ電車には、高低差のある地形を生かした函館水道の仕組みを車体に表現し、みずみずしい爽やかな色彩を用い、水の大切さやおいしさをPRしました。

これらは市民の皆さまに水道への理解と関心をより深めてもらう一助になったと考えています。さらには、デザイン制作の打ち合わせ過程で、学生が函館水道の歴史深さに感銘を受けながら、水道の重要性を認識したことを契機に、職員も今一度、自らの業務を顧み、その責務と市民共有財産であるわが街の水道に誇りを持ってたとの声が寄せられたことも、大きな成果であったと思っております。

また、今年には(公社)日本水道協会全国会議が函館市で開催されました。全国の皆さまをお迎えするおもてなしの企画、視察対応、会議運営のスタッフなど水道部門の職員に加え、下水道、電車部門の職員も含め一丸となって、成功裡に終了できました。今後もワンチーム精神で、さまざまな課題に取り組んでいきたいと考えています。



ユーザーの皆さまの汗が報われますように!

静岡県公営企業管理者
松下 育蔵

「投票前に自問してください。4年前よりも皆さんの生活は良くなりましたか?失業者は減りましたか?アメリカは今も世界から尊敬されていますか?治安は良くなったと感じますか?これらの答えがそのとおりなら、誰に投票すべきか明らかです。でももしそうでなかったら、そして過去4年間と同じ道をアメリカに歩ませてはならないとお感じであったなら、もう一人の候補者がいることをお忘れなく!」

これは1980年のカーター大統領とレーガン州知事とのディベートの際に、レーガン候補が最後に語った一節です。この一節でカーター大統領をノックアウトしたともいわれています。

私は今年4月に静岡県公営企業管理者に就任いたしました。常に心がけているのは「ユーザーの皆さまの

汗に報いたい!」ということ。もちろん、全てのユーザー様が100%報われたと感じることはできないかもしれませんが、努力しているのに報われないと感じる人が一人でも少なくなるよう、全力を尽くして取り組んでいます。

現状維持に甘んじれば、「じり貧・衰退」を招くことを肝に銘じ、現状を打破するための方策を真摯に考え、失敗を恐れずに果敢に挑戦する人でありたいと思います。そしてその集合体がチーム企業局なのです。

今年には革新的な資金運用を行ったことにより、昨年度に比べ運用益は年140万円から15倍の2,140万円に増収しました。また、水道管漏水時の検査方法開発により、16カ所で試掘工事が不要になり1,600万円のコスト削減を実現しました。他にも、電力の契約に際し、期間・契約内容の見直しを行い年3億円のコストを削減しています。

今後もトータルコストを削減し、収益を増やす地道な努力と創意工夫をしまります。

ずいひつ

Z U I H I T U



破顔一笑

宮崎市上下水道事業管理者
宮本 兼治

私は、今年4月に上下水道事業管理者に就任いたしました。「平成」から「令和」へという時代の節目に重責を担うことになり、身が引き締まる思いでございます。今後とも、子や孫の世代まで安全安心な水が届けられるよう、精一杯頑張りたいと思います。

ところで、当市は、温暖な気候や充実した施設を生かして「スポーツランドみやざき」の取組みを推進し、プロ野球やJリーグをはじめ、ラグビー日本代表、サーフィン、トライアスロン等のスポーツキャンプ・合宿等の誘致に力を入れており、私も3年間、プロ野球キャンプ等の誘致に携わっておりました。なかでも、私の趣味のゴルフについては、市内に14カ所のゴルフ場があり、3つのプロゴルフトーナメントが開催されることから、「みやざきゴルフパラダイス」と銘打ってPRしています。

そのゴルフに関する話題ですが、今年8月の全英女子オープンにおいて、渋野日向子選手が日本勢42年ぶりのメジャー制覇を成し遂げ、そのプレー以上に「笑顔」が注目され「スマイリングシンデレラ」と評されました。私は、その偉業についてはもちろんですが、それ以上に、「笑顔」を絶やさないことに非常に感銘を受けました。日頃から私自身が「破顔一笑」をモットーとしており、職員の皆さんにも伝えているからです。

「笑顔」にはさまざまな効果があると言われております。健康面では、免疫力の向上や脳の働きの活性化、血行促進やストレス解消等の効果をもたらすそうです。また、対人関係では、本人だけでなく、周りの人にも良い影響を与え、場の明るい雰囲気づくりにもつながる効果があります。今後も、「笑顔」を絶やさず、明るい職場環境づくりに努めていきたいと思っております。

ちなみに、渋野選手の名前にもある「日向」は、宮崎の昔の呼び名「日向（ひむか）」でもあります。何か縁があるのかもしれませんがね。



学会長になって

(公社)日本水環境学会会長
松井 佳彦

今年の6月に(公社)日本水環境学会の会長に推挙され、就任した。当学会は個人会員数が約2,300名、団体会員数137の学会だ。

研究者として最初に所属したのが会員数約4万人の(公社)土木学会であり、土木工学科に所属していた時期には、学科教員の学会活動のデフォルトは土木学会であることが前提であった。

そのため、他分野の研究者から当学会の規模を聞かれると「小さい学会です」と答えるようにしていたが、具体的な人数を伝えると、意外にも「大きな学会ですね」との返事が多い。どうも1,000名以下の学会というのが非常に多いようである。そして、そのような学会の多くでは、研究者などが手弁当で運営に携わったり外部の会社にアウトソーシングしているようだ。

当学会は、マンションの1フロアを所有し、物理的な学会の所在地がある。また、学会運営のための事務員も雇用しているので、その意味でも大きな学会だといえるのではないだろうか。

規程などを細かく定めて組織的に運営を行っているため、運営に携わる理事や幹事の仕事は多いが、楽しみは会議のあとの飲み会だ。残念ながら当会が所在している森下にはあまり多くの飲み屋がなく、理事や幹事職員全員が入れる場所となるとさらに限られ、いつも同じ場所になってしまいがちである。最初の1、2回は良いのだが、近くの焼鳥屋や中華屋が毎回になってくるとどうもモチベーションが上がらない。しかし、この数年で近くの清澄辺りにいろいろな店が開店したとの情報を得た。WEB上の情報を見る限り、魅力的である。まずは一つひとつを研究対象にしたいと思っている。会長の仕事ではないことは承知しているが、お許しをいただき、楽しみにしたい。